

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	武蔵野学院大学
設置者名	学校法人 武蔵野学院

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通科目	学部等 共通科目	専門科目	合計		
国際コミュニケーション学部	国際コミュニケーション学科	夜・通信	20			20	13	
		夜・通信						
		夜・通信						
		夜・通信						
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://portal-k.musashino.ac.jp/public/web/Syllabus/WebSyllabusKensaku/UI/WSL_SyllabusKensaku.aspx

2025年度入学生よりカリキュラムが新しくなった（新課程）。

検索方法は以下の通り

大学 HP→情報公開 I→シラバス→シラバス検索画面の校地「20：武蔵野学院大学」を選択し、ナンバリングコードに新課程は「BA」、旧課程は「BR」、一番右下の入力箇所に「実務経験」を入力し検索

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	武蔵野学院大学
設置者名	学校法人 武蔵野学院

1. 理事（役員）名簿の公表方法

大学 HP→情報公開 I→1.「教育研究上の基礎的な情報」についての公表
<https://www.musashino.ac.jp/mgu/wp/wp-content/uploads/2025/06/R7yakuin.pdf>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	弁護士	R7.6.3 ～R11.6	労務・法務、組織運 営体制へのチェッ ク機能
非常勤	会社役員	R7.6.3 ～R11.6	財務、組織運営体制 へのチェック機能
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	武蔵野学院大学
設置者名	学校法人 武蔵野学院

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)	
授業計画(シラバス)は、9月下旬より12月中旬にかけてディスクロージャーがハンドブックの更新作業を行い、12月中旬から2月にかけて教科目担当教員に対しハンドブックを配付し、執筆依頼を行う。学生が履修計画を立て、主体的に学習を進めやすくするために2024年度から『シラバス』と『学習ループリック』を同一ページから確認できるように、シラバスの記載内容を変更した。 教科目担当教員は、各項目をWeb(Musashino Academic Station)上で入力し、その後、執筆された授業計画を教務部及びディスクロージャーの点検を経て、4月1日にHP上に公開している。	
授業計画書の公表方法	https://portal-k.musashino.ac.jp/public/web/Syllabus/WebSyllabusKensaku/UI/WSL_SyllabusKensaku.aspx
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) シラバスに記載されている「成績評価の方法」、「成績評価の基準」、「学習ルーブリック」をもとに成績評価をまとめ、学則第 28 条および第 29 条に基づき、教授会の議を経て、学長が単位を認定する。 (シラバス「成績評価の基準」より抜粋) 成績評価は、武蔵野学院大学学則第 29 条および GPA に関する指針を基準として、5 段階評価(S, A, B, C, F)で行う。S, A, B, C を合格、F は不合格とする。 学部の授業科目のシラバス一覧 https://portal-k.musashino.ac.jp/public/web/Syllabus/WebSyllabusKensaku/UI/WSL_SyllabusKensaku.aspx	
3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。	
(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 成績評価において『2025 年度 履修の手引き』の「成績評価について」で GPA の指標を設定し、成績評価の方法基準により、厳格かつ適正に成績評価をしている。また、学生指導や奨学金に対して成績の分布状況を共有し、指導に役立てている $GPA = \frac{S \text{ の単位数} \times 4.0 + A \text{ の単位数} \times 3.0 + B \text{ の単位数} \times 2.0 + C \text{ の単位数} \times 1.0}{\text{履修登録単位数}(F \text{ の単位数を含む})}$	
客観的な指標の 算出方法の公表方法	2025 年度 履修の手引き (1 年生) 2025 年度 履修の手引き (2 年生以上) https://www.musashino.ac.jp/mgu/learning/curriculum/handbook/
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

卒業の認定に関する方針を『国際コミュニケーション学部規程』にまとめ、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）として HP に公開している。

卒業要件は、4 年以上在学し、所定の授業科目について 124 単位以上を修得した者で、教授会の議を経て、学長が卒業を認定する。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）は以下の通り。

1 知識・理解

国際コミュニケーションに関する深い教養や英語を中心とした語学力を身につけ、かつ自国の文化や異文化への理解を深めた者。

2 汎用的技能

国際コミュニケーションに関する講義・演習・実習を通して獲得した知見に基づき、他者や他文化との同質性や差異を認識し、国際人としてさまざまな問題に対応できる能力を身につけた者。

3 態度・志向性

建学の精神「他者理解」に基づき、他者と協調・協働し、社会に貢献しようとする意識を持った者。

4 総合的な学習経験と創造的思考力

4 年間にわたる講義・演習での学びや実習での実践、国際コミュニケーションに関するゼミ科目等での発表・報告等の活動を通じて、批判的・論理的思考力、問題解決能力、コミュニケーション能力などを総合的に身につけた者。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）

<https://www.musashino.ac.jp/mgu/about/3policy/>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	武蔵野学院大学
設置者名	学校法人武蔵野学院

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.musashino.ac.jp/mgu/information/ 大学HP→情報公開Ⅰ→「財務情報(決算)」についての公表
収支計算書又は損益計算書	https://www.musashino.ac.jp/mgu/information/ 大学HP→情報公開Ⅰ→「財務情報(決算)」についての公表
財産目録	https://www.musashino.ac.jp/mgu/information/ 大学HP→情報公開Ⅰ→「財務情報(決算)」についての公表
事業報告書	https://www.musashino.ac.jp/mgu/information/ 大学HP→情報公開Ⅰ→「財務情報(決算)」についての公表
監事による監査報告(書)	https://www.musashino.ac.jp/mgu/information/ 大学HP→情報公開Ⅰ→「財務情報(決算)」についての公表

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:	対象年度:
公表方法:	
中長期計画(名称:	対象年度:
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法:
大学HP→情報公開Ⅱ→自己点検・評価活動

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 国際コミュニケーション学部
教育研究上の目的（公表方法： https://www.musashino.ac.jp/mgu/about/3policy/ ）
（概要） 「現代社会では、「グローバル化」「ボーダレス化」が進み、異文化に対する理解、尊重や相互交流、地球的・多角的な視野が求められている。又、その前提としての自国文化・日本事情への理解や、少子高齢化に伴う異なる世代への理解力も期待されている。変化が速い社会にあつては、法律、政治、経済等への理解も必須である。このような社会にあつて、本学では、国際的な視野をもち、自己や自国文化、および多様な他者に対する理解力に裏付けられた人材の養成」（本学学則第四条）を教育目的とする
卒業又は修了の認定に関する方針 （公表方法： https://www.musashino.ac.jp/mgu/about/3policy/ ）
（概要） 1 知識・理解 国際コミュニケーションに関する深い教養や英語を中心とした語学力を身につけ、かつ自国の文化や異文化への理解を深めた者。 2 汎用的技能 国際コミュニケーションに関する講義・演習・実習を通して獲得した知見に基づき、他者や他文化との同質性や差異を認識し、国際人としてさまざまな問題に対応できる能力を身につけた者。 3 態度・志向性 建学の精神「他者理解」に基づき、他者と協調・協働し、社会に貢献しようとする意識を持った者。 4 総合的な学習経験と創造的思考力 4年間にわたる講義・演習での学びや実習での実践、国際コミュニケーションに関するゼミ科目等での発表・報告等の活動を通じて、批判的・論理的思考力、問題解決能力、コミュニケーション能力などを総合的に身につけた者。
教育課程の編成及び実施に関する方針 （公表方法： https://www.musashino.ac.jp/mgu/about/3policy/ ）
（概要） 国際コミュニケーション学部では、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与方針）に掲げた 4 つの能力を学修するためにカリキュラムを編成する。 1 国際人として活躍できる教養を身につけるために、文化・社会・科学・スポーツ・総合科目からなる教養科目を実施する。 2 英語を中心とした語学について、「読む」「書く」「話す」「発表」「聞く」などの運用能力を総合的に修得するため、言語理解科目を実施する。 3 世代や文化の違いを乗り越えた高度なコミュニケーション能力、他者との協調性を修得するため、人間理解科目を実施する。 4 日本や他国の文化・社会・歴史に関する総合的知見を身につけるため、日本理解科目及び国際理解科目を実施する。

- 5 国際コミュニケーションに関する教養や語学力に基づき、国際的な事象に対する新たな知見や価値を生み出し、それを発信できるように、国際コミュニケーション関連ゼミを実施する。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://www.musashino.ac.jp/mgu/about/3policy/>)

(概要)

求める人物像

1. 国語、英語を中心に、高等学校卒業レベルの基礎学力を持ち、国際コミュニケーションに高い関心を持つ者。
2. グローバル化の進む社会に発生する諸課題に対して、自らの考えを持ち、それを他者に伝えようとする意欲のある者。
3. 国際人として国際社会で活躍するための教養・思考力・主体性を持つようとする意欲のある者。
4. 英語を中心とした外国語を修得した上で、異文化理解を深めようとする意欲のある者。

入学者選抜方法

武蔵野学院大学では、国際コミュニケーションへの関心が高い多彩な学生の受け入れを図るべく、多様な入学者選抜方法を設ける。上記の「求める人物像」を踏まえ、以下の評価方法で各選抜方法を実施する。

・総合型選抜

基礎的な学力や思考力、表現力をはかるため、小論文やプレゼンテーション等を課す。また、主体性や協働性をはかるため、調査書等を踏まえた面接を行う。

・学校推薦型選抜

基礎的な学力や主体性、協働性をはかるため、調査書や推薦書等の内容を選抜の基礎資料として用いる。また、思考力や判断力をはかるため、口頭試問を行う。

・一般選抜

一般選抜では、基礎的な学力や思考力をはかるため、個別学力検査（国語、英語）を課す。また、主体性や協働性をはかるため、調査書等を踏まえた面接を行う。

大学入学共通テスト利用選抜では、基礎的な学力や思考力をはかるため、大学入学共通テストを課す。

・特待生選抜

基礎的な学力や思考力をはかるため、国語や英語等に関する試験を課す。また、主体性や協働性をはかるため、調査書等を踏まえた面接を行う。

・社会人選抜

基礎的な学力や思考力、表現力、主体性、協働性をはかるため、小論文や口頭試問等を課す。

・帰国生選抜

基礎的な学力や思考力、表現力、主体性、協働性をはかるため、小論文や口頭試問等を課す。

- ・内部進学者選抜

基礎的な学力や思考力、表現力をはかるため、小論文やプレゼンテーション等を課す。また、主体性や協働性をはかるため、調査書等を踏まえた面接を行う。

- ・留学生選抜

基礎的な学力や思考力、表現力をはかるため、日本語等の試験を課す。また、主体性や協働性をはかるため、面接を行う。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://www.musashino.ac.jp/mgu/information-02/organization/>

大学 HP→情報公開Ⅱ組織図・学則・ガバナンスコード

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	3 人	－					3 人
国際コミュニケーション学部	－	9 人	5 人	4 人	人	人	18 人
	－	人	人	人	人	人	人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
1 人		41 人					42 人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法： https://www.musashino.ac.jp/mgu/learning/teacher_5/ 大学 HP→学部案内→教員紹介					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
国際コミュニケーション学部	120 人	57 人	47.5%	500 人	345 人	69%	10 人	4 人
	人	人	%	人	人	%	人	人
合計	120 人	57 人	47.5%	500 人	345 人	69%	10 人	4 人
(備考)								

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
国際コミュニケーション学部	99 人 (100%)	0 人 (%)	88 人 (89%)	11 人 (11%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	99 人 (100%)	0 人 (%)	88 人 (89%)	11 人 (11%)
(主な進学先・就職先)（任意記載事項）				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要) 授業計画（シラバス）は、9月下旬より12月中旬にかけてディスクロージャーがハンドブックの更新作業を行い、12月中旬から2月にかけて教科目担当教員に対しハンドブックを配付し、執筆依頼を行う。学生が履修計画を立て、主体的に学習を進めやすくするために2024年度から『シラバス』と『学習ルーブリック』を同一ページから確認できるように、シラバスの記載内容を変更した。 教科目担当教員は、各項目をWeb（Musashino Academic Station）上で入力し、その後、執筆された授業計画を教務部及びディスクロージャーの点検を経て、4月1日にHP上に公開している。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要) シラバスに記載されている「成績評価の方法」、「成績評価の基準」、「学習ルーブリック」をもとに成績評価をまとめ、学則第28条および第29条に基づき、教授会の議を経て、学長が単位を認定する。 (シラバス「成績評価の基準」より抜粋) 成績評価は、武蔵野学院大学学則第29条およびGPAに関する指針を基準として、5段階評価(S, A, B, C, F)で行う。S, A, B, Cを合格、Fは不合格とする。 卒業の認定に関する方針を『国際コミュニケーション学部規程』にまとめ、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）としてHPに公開している。卒業の認定は、学則第33条、第34条に則り、教授会の議を経て、学長が卒業を認定する。 学部の授業科目のシラバス一覧 https://portal-k.musashino.ac.jp/public/web/Syllabus/WebSyllabusKensaku/UI/WSL_SyllabusKensaku.aspx ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針） https://www.musashino.ac.jp/mgu/about/3policy/

学部名	学科名	卒業又は修了に必要な となる単位数	G P A制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
国際コミュニケーション	国際コミュニケーション	124 単位	㊦・無	単位
		単位	有・無	単位
		単位	有・無	単位
		単位	有・無	単位
G P Aの活用状況 (任意記載事項)		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：https://www.musashino.ac.jp/mgu/campus_life/institution/

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
国際コミュニケーション	国際コミュニケーション	700,000 円	200,000 円	210,000 円	施設設備費・施設維持費
		円	円	円	
		円	円	円	
		円	円	円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
（概要） 1 年次から 2 年次までクラスごとの担任制を設け、3 年次から 4 年次はゼミナール担当制を設けています。一人ひとりの学生の学業上の相談や進路指導、生活面でのアドバイスなど、きめの細かい修学支援を心がけ、学生のささいな変化や不安にも気づけるような体制を整備しています。学生は、なにか不安を感じたらすぐに担任やゼミナール担当の教職員に相談できるので、修学上のつまづきを早期に解決することが出来ます。 本学では、海外の多数の大学・教育機関と提携し、交換留学や語学研修プログラムを実施しています。なかでも、2 年次・3 年次に実施する 3 週間の海外研修は希望する学生全員が参加できます。また、セメスター制を採用していることから、半年間留学しても 4 年間で卒業が可能な制度を整えています。海外からの受け入れ留学生についても教務部と連携したサポート体制を構築しています。いずれについても、国際センターの担当教職員が留学中はもちろん、留学前後のケアも行うなど、一人ひとりのニーズにあわせたサポートを行っています。 本学独自の奨学金として入学時に①特待生制度、②スポーツ特待生制度を設けているほか、在学生に対しては③海外研修奨学金、④海外留学奨学金、⑤GPA による特待生奨学金があります。①は総合型選抜や一般選抜等の入試結果、高等学校在学時の成績等に基づき、優秀な学生に対して学費の一部または全額を給付しています。②は、スポーツ競技において優秀な成績を収めた学生に奨学金を給付するものです。在学期間中に留学や海外研修に参加する学生に対し、在学中の学業成績により、学費や渡航費を給付する③と④の制度のほか、在学中の学業成績が優秀な学生に対して奨学金を給付する⑤の制度も本学独自に設けています。また、自然災害で被災した学生や、家計急変等で経済的支援が必要な学生に対して、修学が継続できるよう、本学独自の支援体制も整えています。その他にも「高等教育の修学支援制度」、「日本学生支援機構」の奨学金制度、「生活福祉資金貸付制度」などがあります。また「学費サポートプラン（㈱オリエンテーション）」も適宜、案内しています。 https://www.musashino.ac.jp/mgu/wp/wp-content/uploads/2024/06/health.R6.pdf
b. 進路選択に係る支援に関する取組
（概要） 就職・進学等への各種支援を就職部が行うだけでなく、担任・ゼミ担当・キャリア教育担当等の教職員と関わりながら、将来への道をサポートしている https://www.musashino.ac.jp/mgu/career_employment/
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

個人的な悩みや相談は、まず担任の教員をはじめ、内容によっては学生相談室の担当の教員が応じています。相談においてはすべて個人の秘密は守られるので安心して利用できます。

(セクシュアル・ハラスメント、アカデミック・ハラスメント等を含む)

<https://www.musashino.ac.jp/mgu/wp/wp-content/uploads/2024/06/health.R6.pdf>

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：<https://www.musashino.ac.jp/mgu/information/>

情報公開 I 「教育研究上の基礎的な情報」についての公表

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格 A 4 とする。